

令和4年度(令和3年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	33-2		
PDCA	主要事業名	図書館資料整備事業	部課名	教育部図書館	担当	竹内		
					内線	23-7171		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進							
	全体事業期間： 令和 3年度 ~ 3年度 全体事業費等： 31,750 千円							
	会計 一般会計 歳出科目 09.05.03.02.02							
	3か年実施計画（当該年度事業費等）： — 千円							
	事業概要等	事業概要： 利用者のニーズに合った図書資料を幅広く整備するとともに、地域情報の集約場所としての機能を維持し、魅力ある図書館づくりを行います。また、子ども読書活動推進計画に基づき、児童書の充実を図ります。障がいのある方や高齢者、外国籍の市民等にも配慮した資料や、電子書籍など、読書の機会を拡充する資料整備にも努めます。						
		事業目的： 幅広い年齢層の利用者にとっての魅力ある資料を充実させ情報提供に努めることで、市民の学びを支えます。						
		事業内容： 一般図書、児童図書、視聴覚資料、新聞、電子書籍等について、司書が内容を確認し購入します。						
	問題点・課題等： 図書館利用者数、貸出点数が減少しています。							
	予算額	主要事業とする理由						
	31,750 千円	公共図書館として、利用者のニーズにあった幅広い図書資料を整備する必要があるためです。						
財源内訳	得られる成果							
市費	より多くの市民の学びの支えとなります。							
31,656 千円	目標値や目指すべき状態							
国費	令和元年度 令和2年度 令和3年度 単位							
0 千円	市民一人当たりの貸出	実績値	7.6	6.0	—	冊		
県費	0 千円	目標値	8.9	8.5	8.5	冊		
		実績値						
その他	94 千円	目標値						
		実績値						
D 値得られた成果と実績	決算額	得られた成果						
	31,741 千円	コロナ禍により減少していた貸出数が回復しつつあり、市民への学び・情報の提供が来ている。特に、読みたい本を効率良く読むための予約サービスは、コロナ禍前より件数が増加した。						
	成果指標					令和3年度 単位		
	市民一人当たりの貸出点数	実績値	7.2			冊		
		目標値	8.5			冊		
C 課題の整理	事業の評価・課題	D コロナ禍のもと来館者数の完全な回復にまで至っていないが、より分かりやすく本を探すための手段として、分類シールの一部変更や利用者検索端末での配架地図を表示させるなどのサービス向上に努めた。第二次半田市子ども読書活動推進計画の策定とともに、調べ学習に役立つ本や、古くなった良書の買い替えに努め、新本だけでなく児童書の充実を心掛けた。外出の自粛も余儀なくされる中で、効率よく本を予約・貸し出せる環境づくりをし、貸出点数をいかに増やしていくかが課題である。						
	今後の事業の方向性	改善推進 利用者のニーズに合った図書資料を整備するとともに、電子書籍の利用拡大を図っていく。また、郷土資料の収集に努めるとともに、図書館が所蔵する貴重な郷土資料のデジタル化も準備し、紙媒体・電子媒体双方での情報発信ができるよう、知の情報基地としての機能の維持・拡張を行っていく。障がいのある方、高齢者、外国籍の市民、貧困家庭等にも配慮し、広い視野から読書の機会を拡充することができるよう、他課とも連携しながら利用促進を図っていく。						
A 課題の解決方向性に向けた	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト	削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化	余地	ない
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない			

予算見積書で活用

目標項目（予算計上時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

評価項目（決算時に作成）